枝

片

(其十四)

ラム」ヲ梅ダ ラ或ル學者 ラ 和 面 對 百 7 別 ハ梅 チー方ハ賢コ過ギ ŀ = 思ヒ込ン ハ歐洲ガ原産地デソレカラ東洋方面へ擴マリ來ッタト書イテ識者ノ嗤ヲ買ッタ 先 ヅ 略 デ居ル ボ E テ誤譯ヲ敢テシ一方ハ正直デアッテ過 シ ト時々トンダ間違ガ生ズル、上ノ様ナ譯ダカラ是レ迄永ク濡衣ヲ被セラレテ居 ク Plum P ヲ李ノ實 Plum-tree ヲ 李 樹。 チ ŀ ガナイ、 譯 **≥**⁄ テ ァ 又「プラム」ヲ梅 ッ テ梅 ŀ 決 **≥**⁄ = テ ト謂フモ ŀ 書 モアッタ「 イ テ ŕ ダ 1 力 力

際一般ノ英和辭書モ 櫻ハ旣ニ西洋人ガ書ク様ニ宜シク Flowering Cherry ト 餘り見苦シィ字面デ ヲ用ウベキデアルソレ タ「プラム」ノ名ハ一刻モ早ク原トノ西洋ノ李へ還シテ置イテ梅ノ英語トシテハ天下晴レテノ Japanese Apricot 將軍) Samurai (同第四號ノ「Plum ニ就テ」ノ記文參照アレ (本誌第一卷第三號ノ「Plum ハ梅ニ非ズ」丼ニ) (士) Kimono (着物)ナドノ例ニ倣ヒテイッソ簡單ニMumeトス 和英辭書モ早速此等ノ點ヲ訂正シ + ナイネ、 ŀ モ梅ノ學名ハPrunus Mumeデアルカラ彼ノHarakiri (切腹) Riksha (人力車) Shogun 序ニ曰フガ櫻ノ如キモ日本ノ櫻ヲ單ニ テ學生へ誤謬ヲ教へ込ム スベキデアル、 Cherry ソウシナ ルカナ、梅ノ花 Mume Blossoms Ź ノ字デ用 3 ŀ ŀ 日本 ヲ 澼 ゥ 7 Ż 櫻卜 ルノ jν 樣 ナランョ 惡 シ Ø N イト日本 イ モ 此

## 枝 片 葉 (其十四)

野 富 太 鄎

牧

大麻ノ假名ガ おほあさトナッテ居ツ ノ活字ガ ŀ ナ チ į, N / アッ 此樣 ガ おぼあおト テ之ヲ使用 込 一假名付 ナッテ居 夕大麻ノ假名 + スル ノ活字ヲ用 ユ 工 \_ 旧タ大麻 = 起因 新 聞 ヲ讀 ゥ シ グ單 タモ jν 或 ム人人々 ガ = n 爲メニ眞偽ヲ識 あさデ ノダ然シあさニら 聞 其邊ニ注意 = 降 ィ 雹 Æ ノダ 別 グガ是 記 Ø ヲ ス セ あ jν カノ ヌ な v 大麻 ŀ ガ ŀ ・云フ名 無 お 時 イ ほあさト ガ 大分害 ŀ \tau ン ダ誤 無 此 オ ナ サ B ッ ヲ受ケ入レ 力 V パラ之ヲ でほあ テ居 タ 事 い
さ
ノ n ガ 譯 B 書 樣 Œ n ハ ィ 近來 あ テ シスト 誤 ァ ŀ ラ 假 ッ ナ ス テ

付キ

ト誤

タ

jν

來タモノデ當時前 産ノ Erigeron annuus L.ハ何時頃我邦 寫生 窺ヒ知ラルト ナッタ「植學略解」デ伊藤謙氏ガ始メラ付ケタ様ニ書イラ置イタガ頃日、 引ケル文中ニ 啖ァ〔炳ガロク〕擣キ爛 ヲ制 ア ŀ いこん) w 實生 蓋シ 載ッテ居ル、 いたどりノ巨幹 此ニ食中ニ蘆菔アルヲ見テ乃チ云ク此レアルニ 例 シ ス書、 ハナイカト思フ ・テ編シタ『倭種洋名鑑』 党増 ト題セル本ヲ閥シテ其レガ誤リデアッタコトガ分ッタ、 徳川末葉時代ノ明治維新へ差迫ッタ時分ニ出來タモノデ他ノ陽蝶花、 ニテ變化ス草高サ八九寸ニ而尺ニ餘ス秋冬ョリ花出早春盛リ也」ト記シテアッテ當時 ノ條[發明]ニ 龜裂 婆羅門僧ノ東ヨリ來ルアリ麥麫ヲ食フ者ヲ見 モ「醫經ニ言フ蘿蔔ハ麫毒ヲ制スト」漢文 ノ文ガアル ブ假名 圖傍ニ ニ記シタ柏木吉三郎ガ之ヲ柳葉姬菊 ●いち早くお輿入りした姫女莵 記 人根卸シ 何 大正十二年二月十八日横濱植物會ノ一行ガ相州眞鶴へ採集旅行ヲナシタ時 「「頌ガ日 シ麫ヲ制 シアル記事ニ「イギリスヨリ來ル洋名パンゼ」トアル 時 デ 三色すみれノ名 モ きれ シ餺飥ト作シテ之ヲ食フ最モ佳 ロク〕萊菔 邦俗今日蕎 つト へ入ッタモノカ ハ功燕菁ニ ナ 麥は 大ながれるが 賴 本誌第二卷第一號ニ 同ジ テ以テ其性 是 ト名ヅケ同ジク『倭種洋名鑑』へ畫イタモ 卸製ン 然ド レモ亦明治 今日ひめじょをんト稱へルきく科 テ驚 ヲ 添テ食フ デテ云 きん モ力猛ナ ナリ飽食スルモ ヲ解スト ノデ或ハ此等ニ基キ前記今日 一ク此 n 維新 事ガ常デ クデ 於テ三色すみれ ル大熱 ルコト更ニ 物識リノ植木屋デアッタ柏木吉三郎 此 ニ押シ迫 ナ ョリ相傳 翔蝶花、 叉「元治元年子 Ì アルガ是 亦熱ヲ發セ Æ -ッタ德川 ノナ 其右 ナ ヘテ麫ヲ食フニ必 ラ 遊蝶花 ノ名 ルニ ナ V 出ヅ……尤モ能 ハ『本草綱目』萊菔 1 時代 即 何 ノ外來草 ズ云云」 = 明治七 ノ栽培 二月初 1.ノ別名 ラ以 チ三色すみれ ŀ こノ習俗 ナ 同 デ 末 テ之ヲ食フ ۴ ァ 即チ北 地 期 年ニ ŀ 叉李時珍 即 狀ガ能 リ諸 共二其書 2ズ 蘆菔 ガ チ 岬 出版 早 生 是 家植 沙 ガ " ガ ŀ ヲ

De Vriese; P. Zuccarinii Small.)ノ巨幹ニ逢着シタ之ヲ見ルニ從來未ダ曾ラ見タコトノナイ大サニ いたどり即チ虎杖(Polygonum Reynoutria Maxino.=P. cuspidatum Sieb.er Zucc. non Willip; P. Sieboldii 一成長シ

・テ居

断 枝 片 葉 (其十四

著者 大正 辛フ 名 居 備前 今日但馬、 雌 ロッタ雌 可喜點茶家尤貴重以 Æ ガ v デ三十八「ミリメ Þ 雄異 たど 八年二 ジ ァ , Ï 判ラヌ 北 ヲ テ今日 部 v h 本 ニ之ヲ Ħ 播磨 月 **\$**2 幹 リ美作 多 或 千 3 周 測 殘 防 年草 ル寫生 v 四 デ 稱 木 た シ H 1 ッ ĵ ・デア 大島 八居 實ノ乾 國 な テ テ 扂 樣 見 為雅 書 畫 = ŀ テ jν 集 信 稱 ニナ デ N jν jν È だ 古 品 ィ = モ ハ古來食用 = 3 んじ ア居 ノデ いた . ヘ ハ Þ 三尺許上 根 圖 jν ŀ は カラ石見 元 ニ添フタルまつな(鹹蓬)ノ記事 ガ枝 アッ たぢび(多遅、 な 八多分此占名 なうどト 3 ıν ハ ナ ト云ッテ居 リ二寸許 夕此 ィ ノ處デ三十五「ミリメート ノ上ニ着イテ居ッタ時節ガ時節デアル 供 力 ノ國デ 稱 ŀ まつないあかざ科 シ居候俗ニ葉うどト ●はなうど食用 思 Ŀ ス ハ之ヲたけすいば jν デ フ jν ノ轉化シテ今日ニ遺ッテ居 多遲此、 何島 ガ是レ 直徑四十 植物モ當 デ ハ恐ラ ハ 多治比、 其根 地三 ブ件 ¬ Suaeda glauca 似ヲ咳嗽さ 申居候」 テ = ij 太知比、 (竹酸葉ノ意)ト ハ Ź 食用 海灣砂際多有之好事者採作蔬或和 阎 Ţ v ッタ、 Ш 1 ŀ た トア . 縣備前 藥 ト ŀ v ·致居 づまノ語尾 ルモノデアラフ又告 丹比、 カラ無論幹 ッ シ シテ使用 BUNGE. (候) 但 和氣郡 尽 寸三 稱ス テ高 シ近年ノ 內海 ガ變 サ シ叉痩 n デ Ŧi. ノアッ 登村 ŀ 厘)、 枯 凡 まつな食用 ッ 云 序ニ セ テ ッ テ = 清水秋 丈程 テ葉 其 ニュ
な 言フ テ居 タ ίt ۲ 古 モ 砂 ままつな ガ 本 名 ッ v , B 成長 な 魚 縣 太 奓 デア v = 面影 グす たど 件 郎 ŋ 4 作 出 君 此 臛 テ n シ Ŀ モ ヅ ヲ ガ 樣 テ 1

州 テ見 崗 maritima Dumorr.)しちめんさう(S. japonica Maxivo.)ト同屬 十不 松代邊 覚ノ條下 ハニ三尺ニ成長シ枝ヲ分チ多數ノ綠葉ヲ着 ヵ 肼 湾味ナ デ 用 ハ 夏 二供 「人多ク苗ヲ釆リ煮テ晒シ蔬ト爲ス」薬 É ノデアル jν h 即 びゆ(漢名 チ 、生薬ニハ ĴΕ 月頃 ナド ハ馬歯莧、 鹹 味 ニ之ヲ復 ガ ァ 學名 ケ ビビ煤デ 細花ヲ生ズ Portulaca oleracea L.) ヲ 採 ŀ すべ 記 シ 麻アヘナ v テア りびゆ食品トナ ノー年草デアル中國筋 此嫩葉ヲ食用 jν ヲ見 ŀ., シ n テ食 ŀ 支那 = ス ŋ ス n 其 jν デ 私 モ 根 理學士 ŀ ヲ モ 樣食用 事 先 一思田 车 デ ノ 濱邊 莖葉 備 7 後 經 " ノ三 ス タ ヲ 介 本 地 v 君 ŀ 草 原 デ 談 //デ味 生 見 ` 目 = 信 シ